

令和8年度「伝統工芸の匠」プロフィール

【伝統工芸の匠】

- 1 産 地 高岡漆器
- 2 氏 名 ふじしま かずみつ 藤島 一貢
- 3 生年月日 昭和38年2月2日生 63歳
- 4 勤 務 先 藤島木材工芸（射水市坂東24）
- 5 略 歴 等
 - ・昭和62年 父 藤島 勇 氏に師事し、木地技術を習得
 - ・平成15年 金場 正一 氏（高岡市伝統産業技術保持者）に師事し、指物木地技術を習得
 - ・令和4年 斉藤 慎二 氏（伝統工芸の匠）から塗り技術の指導を受ける



6 役員歴

伝統工芸高岡漆器協同組合

- ・理 事（平成23年5月～令和3年5月）
- ・副理事長（令和3年5月～）

高岡漆器伝統工芸士会

- ・理 事（平成20年4月～平成22年3月、平成24年4月～令和3年3月）
- ・副 会 長（令和5年4月～）

7 受賞歴

- ・平成13年3月 高岡市伝統産業優秀技術者表彰 受賞
- ・令和2年11月 日本伝統工芸士会功労者表彰 受賞

8 技術技法

高岡漆器の技術製造の流れを汲む製作技法（くりもの 剝物）を生かした、テーブルベンチ・椅子・花台・器・皿など多岐にわたる商品を制作している。製材から粗削り、加工、研磨の全ての行程を手作業で行い、材料の見極めや難しい材料の加工など、卓越した技術を用いて作品を仕上げている。

【高岡漆器 概要】

高岡漆器は加賀前田家2代当主の前田利長が1609年に高岡の町を開き、指物職人が高岡に移り住んだことから始まる。高岡漆器を代表する伝統的技法は彫刻塗、勇助塗、青貝塗の三つになる。彫刻塗は草花鳥獣、青海波、牡丹、孔雀などを彫りだしたものが多く、立体感と独特な艶を表現できるのが特徴。勇助塗は唐風の雰囲気をもつ意匠に花鳥・山水・人物などの鏝絵や箔絵を描き、要所に青貝、玉石などを施すなどの総合技法によって作り出される。青貝塗は鮑などの貝を刀・針等を用いて三角形や菱形の細片をつくり、これを組み合わせて山水・花鳥を表現する技法。

【藤島氏作品】



手彫り皿S



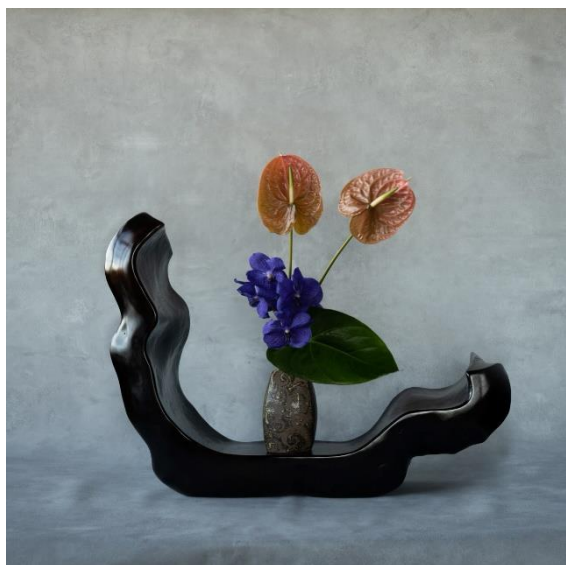
取り皿S



厚皿S



手彫り鉢S



Cアーチ柝S



一位台S